

すこやかちゃん



ま お なお や
茉央ちゃん・直也ちゃん

(平成16年8月24日生・平成18年2月22日生)
両親＝富樫康裕・松美さん〔三川〕
「けんかもするけど、
とっても仲良しなんだ。」



まな み
愛美ちゃん(平成16年2月13日生)
両親＝江波戸省一・朱美さん〔二(袋)〕
「幼稚園がんばるよ！」



しずく
雫ちゃん(平成18年8月10日生)
母親＝仲森由美香さん〔鎌数〕
「笑顔がキュートな雫！
長いマツゲが自慢です！」

すこやかちゃんを募集しています

掲載ご希望の方は、秘書広報課広報広聴班(〒289-2595旭市二の1920・☎62-8070)へ。
対象は、小学校入学前の幼児です。申込用紙は、保健センター、海上保健センター、飯岡保健センター、干潟保健センター、秘書広報課にあります。



紙上展示室 ―旭モノ語り― 第二十二回

新川浚一件

◀「新川浚一件」表紙



市内を縦断して流れる新川が、水をたたえる季節になりました。田植えを終え、きらきらと輝く水田の景色は本当に美しく、利根川からの通水期間は、干潟耕地の豊かな表情が一段と輝きを増すような気がします。

干拓の排水路として掘られた新川は、その生い立ちからも分かるように、低地の人工河川がもつ問題を抱えていました。

海抜が低いため、川床に土砂がたまりやすく、定期的な川ざらいが不可欠なこと、いったん大雨に見舞われると水が引きにくく、水害が発生しやすいことなど。

周囲の村々で治水をめぐって利害が一致しないことも、水争いが頻発する要因でした。江戸時代後期には、新田十八か村による組合がつけられ、新川の管理にあたっていました。

この「新川浚一件」は文化十年(一八一四年)の大水害をきっかけに起こった「大浚」事業の記録です。

数年に一度は水利紛争が起こりましたが、特に琴田、清滝、萬歳、入野、関戸、春海の「窪地六か村」と、夏目、八重穂、新町、高生、幾世、大間手、長尾、萬力、米込、鎌数、秋田、米持の「高地十二か村」は、工

一刻も早く川ざらいを行ってほしい窪地と、必要ないという高地、水が流れすぎると用水が不足して困るという下流。ここに収められている訴訟の申し立てには、これまでの水争いの歴史と村々の対立が綿々と刻まれています。

かつて闘いや争いの水であった新川を流れる水も、今では豊かな共生への水となりました。

〔大原幽学記念館 猪野映里子〕

暮らしのカレンダー

- 3日(木) 憲法記念日
- 4日(金) みどりの日
- 5日(土) こどもの日
- 13日(日) 母の日
- 20日(日) 東部五市体育大会
- 27日(日) 春のゴミゼロ運動(午前8時～)

編集後記

新年度がスタートして1ヶ月になります。新しい環境に慣れるということは大変なこと、自分が思っている以上に労力を使うものです。このひと月、訳も分からぬままただ慌しく過ぎてしまったと感じている人もいるかもしれません。この先もやっていけるだろうかと心配している人も。でも、大丈夫。あせることはありません。毎日のがんばりは少しずつだけど、きっとあなたを成長させているはずですよ。そう自分に言い聞かせ、がんばっています。(ま)